

## 議 事 録

会 議 の 名 称	第 1 回 学校規模学校配置適正化検討委員会
開 催 日 時	平成 2 4 年 6 月 2 8 日 (木) 1 4 時 0 0 分～
開 催 場 所	小川総合支所 大会議室
出 席 者	<p><b>【出席委員】</b>          水本徳明 戸田見成 萩原 茂 菊地 稔          藤田恵弘 小埜正美 福田智彦 小仁所 浩          西村浩一 立原幸子 鈴木美樹 邊見亜津子          稲田 弘 中島 淨 沼田マサ 飯島利武</p> <p><b>【欠席委員】</b>          村田春男 星野広幸 竹内昌信</p> <p><b>【教育委員】</b>          中村三喜 鶴町庄二 沼田 新 澤島照子</p> <p><b>【事務局】</b>          小松修也 戸塚俊宏 成井修也 真家 厚          佐々木 浩 菅谷清美 大枝江梨子</p>
協 議 案 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施計画策定の進め方及びスケジュールについて</li> <li>・ その他</li> </ul>
会 議 資 料	別 紙 ( 会議次第、 他 )
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開    (傍聴者 0 人)

### 【委嘱状交付】

中村教育委員長より水本徳明委員に委嘱状を交付する。

### 【教育委員長のあいさつ】

平成24年2月に「小美玉市小中学校規模配置適正化基本方針」ができあがった。今後はこの方針に則り、基本方針をどのように実施していけばよいかの議論をいただきたい。

### 【委員の紹介及び事務局職員の紹介】

#### 【委員長の選出】

中島浄委員が水本徳明委員を推薦。全会一致で委員長に水本徳明委員を選出。以降、水本委員長が議長となり議事進行する。

### 【協 議】

#### (1) 実施計画策定の進め方及びスケジュールについて

事務局	<p>○事務局より基本方針策定の経過について説明する。【資料1】</p> <p>平成24年2月にこの委員会から基本方針の答申をいただいた。それに基づき、教育委員会が素案を作成。その後、3月～5月にかけて素案に対するパブリックコメントを募集した。結果は【資料2】の通りである。素案の修正を求めるといよりは適正化に対する感想や質問、総括のような意見が多かったため、素案をほぼそのままの形で基本方針とした。</p> <p>○事務局より基本方針の概要について【資料3 小美玉市小中学校規模配置適正化基本方針】に基づき説明する。</p>
委員	学級規模については「1学級20～30名」と幅を持たせているが、学校規模については「～以上」となっている。引越しなどで児童数が減り、3学級が2学級になるようなことも考えられるので、幅を持たせた方がよいのではないかと。
委員長	実際に実施となれば、数が合わないことも出てくるであろう。運用の際に、数字をどの程度弾力的に扱っていくかなど、今後は基本方針の運用方法について検討していく必要がある。数字が一人歩きすることのないようにしていきたい。学校適正化について市民の方にも伝わっていると思うが、要望等、何か聞いているか。
委員	パブリックコメントを募集していたことを知らない人がたくさんいるのではないかと。
事務局	パブリックコメント募集の方法としては、まず、議員に素案の中身を説明した。その後、広報誌やホームページへの掲載、本庁や支所にパブリックコメント募集のスペースを設置し、1ヶ月程度意見を募集した。ただ、全市民に浸透するまでに至っていないのが現状であるので、さらなる周知への努力をする必要がある。
委員	知らない市民が多い。もっと広報する努力をすべき。

委員	広報誌はたくさんの方が見ると思うが、ホームページについてはどうか。高齢者はホームページをほとんど見ないのではないか。
委員	ただ伝えましたというのではなく、「確実に伝わったか」まで調査をするべき。
委員	パブリックコメントが少なすぎる。みんなに分かるように広報するべきである。
事務局	先ほど、議会へ基本方針を説明したとあったが、議会から何か反応があったか。
事務局	その場ではなかった。
委員	玉里地区では東小、北小が玉里小に統合されてしまうのではという懸念から、反対意見が多い。しかし、新しい学校をつくるということであれば、賛成にまわる人もいる。
委員長	基本方針が広く市民に伝わっていない現状にある。今後は、この会議の中身をしっかりと市民に伝えていくことが大切である。それに合わせて、学校適正化の目的は、子どもたちによりよい教育環境を整備することであるということも周知していかなければならない。
	次に実施計画素案策定に向けての進め方について議論いただきたい。
	○事務局より【資料4】に基づき説明する。
委員長	事務局に進め方の例を挙げてもらった。意見等いただきたい。
委員	基本方針を図式化したリーフレットを作成し、住民説明会の前に住民全員に配布してはどうか。住民も説明会の前にある程度知っておく必要がある。
委員	子どもの数が減少し、切磋琢磨する機会が不足してきた。また、クラス替えができないことで、人間関係、立場関係が固定化し、子どもの伸びやかな成長が失われるケースも懸念される。1学級であることの弊害が出てきている。
	地域の人たちの理解が得られなければうまく進まないのも、統廃合のメリットやデメリット等、きちんと情報を示して話し合いを重ねる必要がある。さらには、子どもが学校に通っていない世代の家庭も巻き込んで、議論を交わすべきである。
委員	パブリックコメントを募集するだけでなく、住民と直接対話することが大切である。面と向かって話をしないと意見は出てこない。地域の考えが分かれば、今後の進め方も変わってくるのではないか。
委員長	リーフレット作成にはお金がかかるが、事務局としてはどのように考えているか。
事務局	予算のこともあるので、この場で作るか作らないかをはっきりと言うことはできない。しかし、基本方針を図式化したものは作成してみる。
委員	リーフレットは分かりやすくないとだめである。
委員	学区ごとに説明会を開いてほしい。
	小川高校の跡地利用の現況、石岡市と行方市の統廃合状況を教えていただきたい。
事務局	小川高校については、現在県の土地なので、それが市に譲渡されるかはまだ分からない。しかし、小川高校が閉校する前に、市としての有効活用案を出す必要がある。県が譲渡するかは、市がどのように活用しようとしているかにかかっているとところもある。

事務局	石岡市八郷の統廃合状況としては、4つの中学校を2つにする予定である。石岡市の小学校の統廃合状況については、現在公表されていない。行方市は、小学校22校を4校にし、新しい学校を中学校の近くに新設するようである。中学校の統廃合はない。
委員長	住民説明会について何か意見はあるか。
委員	全ての学校区で説明会を実施するのか。それとも統廃合に関わる学校区だけで実施するのか。
委員	統廃合ありきでいくのはまずい。
委員	住民への説明をきちんとするべき。それが十分になされれば、反対があろうとも前に進んでいくはずである。
委員長	どのような形で住民説明会を実施すべきか。
委員	実施計画策定の期限はあるのか。
事務局	24年度中には教育委員会で実施計画をまとめたい。平成25年3月には教育委員会へ実施計画の答申をいただきたい。
委員	この学校とこの学校を統合するという案を示すべきではないか。
委員	それだと統合ありきになってしまわないか。
委員	現在、改築工事をしている学校地区の住民は、統廃合はないだろうと思っている。よって、説明会を開いたところで集まらないのではないか。
委員	教育委員会は、学校の統廃合を見越して、学校の改築を進めているのか。
事務局	今の工事は、学校の耐震化に伴う措置であって、統廃合を考えての改築ではない。学校適正化の話は、耐震化の後に出てきた話である。
委員	教育委員会は夢のある学園地域を描き、それを提示していくべきである。どこどこが統合するの話だけでは、反対住民が納得することはない。住民に夢を持ってもらわないと、話が進んでいかないのではないか。
委員	基本方針には、学級の人数を20人～30人としているが、学級は20人程度で成り立つ。30人になると、保護者からは1人1人の個性を伸ばしてもらえないのではという不安が出てくる。学級人数は20人程度にして、学級数を増やせばいいのではないか。 住民説明会の際には、様々な提案を提示するべき。「夢」を掲げて、話をすれば前向きに考える人が増えるのではないか。
委員	夢が見えにくい基本方針であるのは明らかである。リーフレットを作成し、住民への周知を図ってから、説明会を開催するべき。 こことここが統合するという具体例を出されたら、夢は持てなくなるので、例は挙げずに、まずはたくさんの意見を聞くべきである。
委員	新たな場所に学校をつくるという考えはあるのか。
事務局	そのようなシュミレーションはしていない。この委員会から実施計画をいただいた後に検討していく予定である。

- 委員 住民説明会を早く開催しなくてよいのか。答申が来年3月に間に合わないのではないか。
- 事務局 住民の方との丁寧な意見交換が必要であるという意見を踏まえると、必ず3月に答申をあげてほしいとは言えない。
- 委員 より多くの市民の意見を聞くべきである。パブリックコメントでは一部の人の意見しか聞くことはできなかった。  
広報誌の1スペースに掲載するのではなく、この話題のみが書かれた広報誌を作成してはどうか。  
ホームページはほとんどの人は見ない。  
こういう学校をつくりたいという理想を持っている市民はたくさんいるので、意見を聞いてもらいたい。その際、大人数だと発言しない人が増えてしまうので、人数には配慮すべき。
- 委員 住民は、基本方針に載っている数字だけを見て判断してしまう可能性があるので、切り出し方が非常に大事だと思う。
- 委員 地域協議会は、中学校区単位でつくればやりやすいのではないか。
- 委員 説明会というのは一方的だから、やり方を変えてはどうか。大まかな原案を事務局の方で提示し、それについてたくさん意見をもらうというようにするのはどうか。
- 委員長 「説明会」という名前を変えるべきか。意見が聞きたいという姿勢が伝わるような名前に。
- 委員 「地域懇談会」など。
- 委員長 次回は、住民説明会の具体的な実施方法について検討していただきたい。
- 事務局 次回の会議までに、基本方針を図式化したリーフレットの素案を作成する。

15:55 閉会

